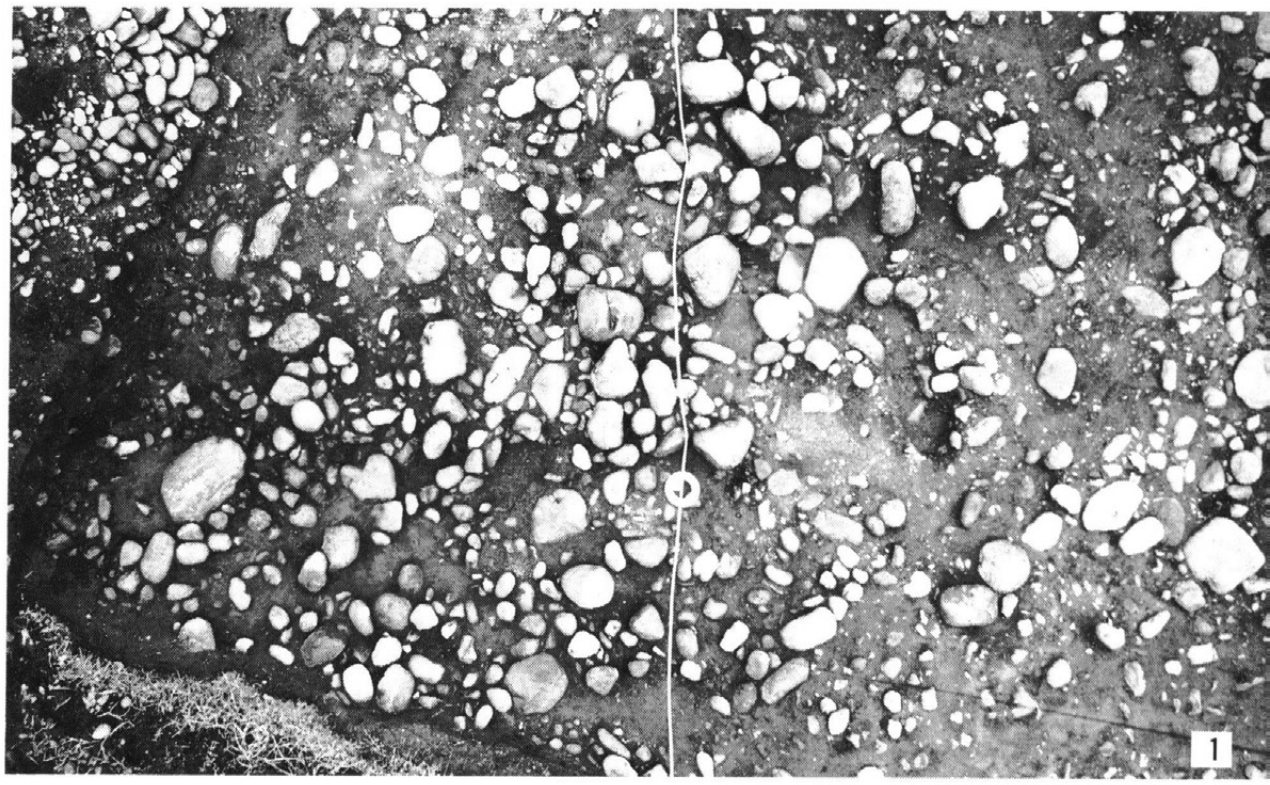
縄文時代晩期末集石群

（土坑群）

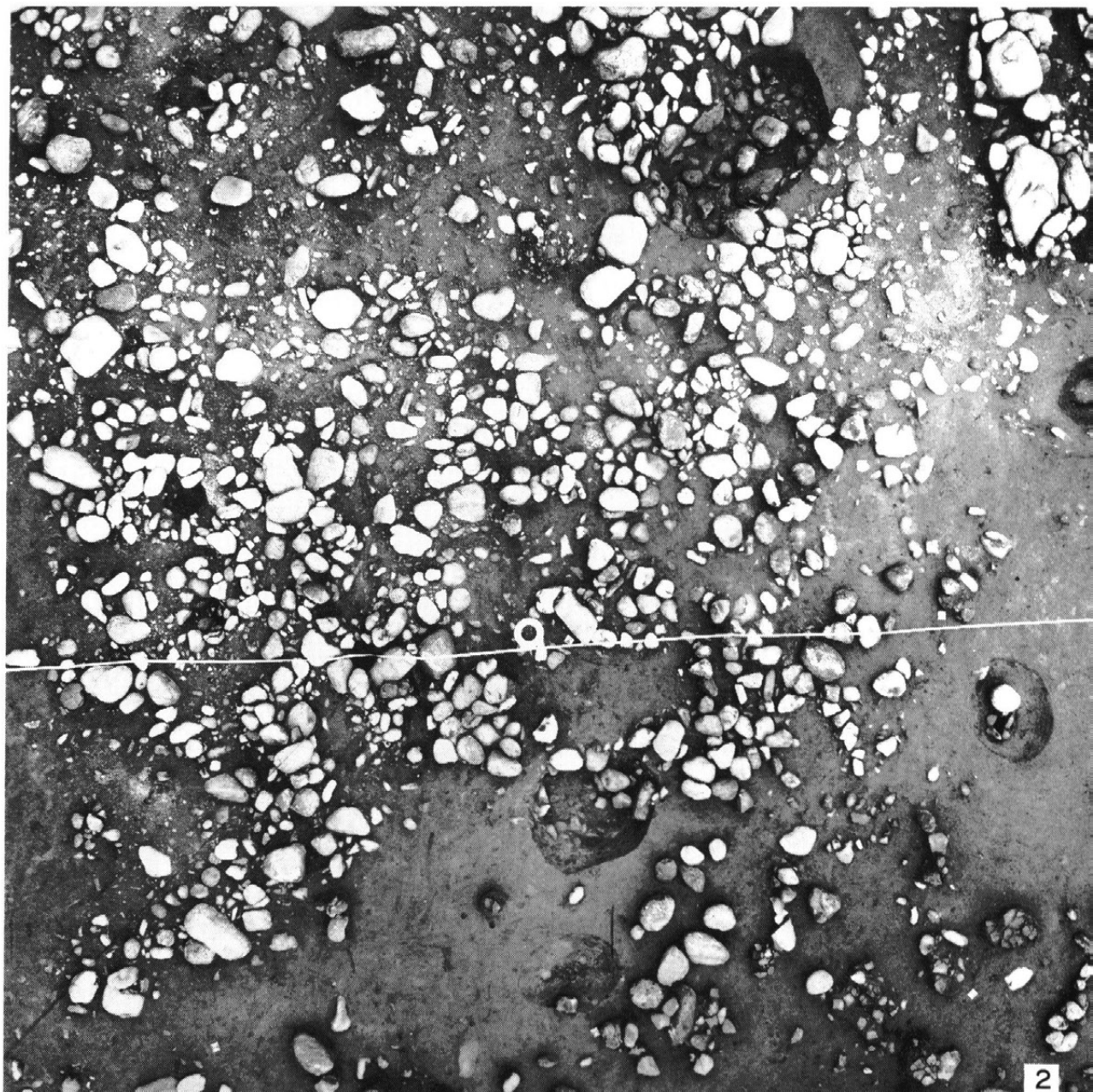
1．土坑70～73付近

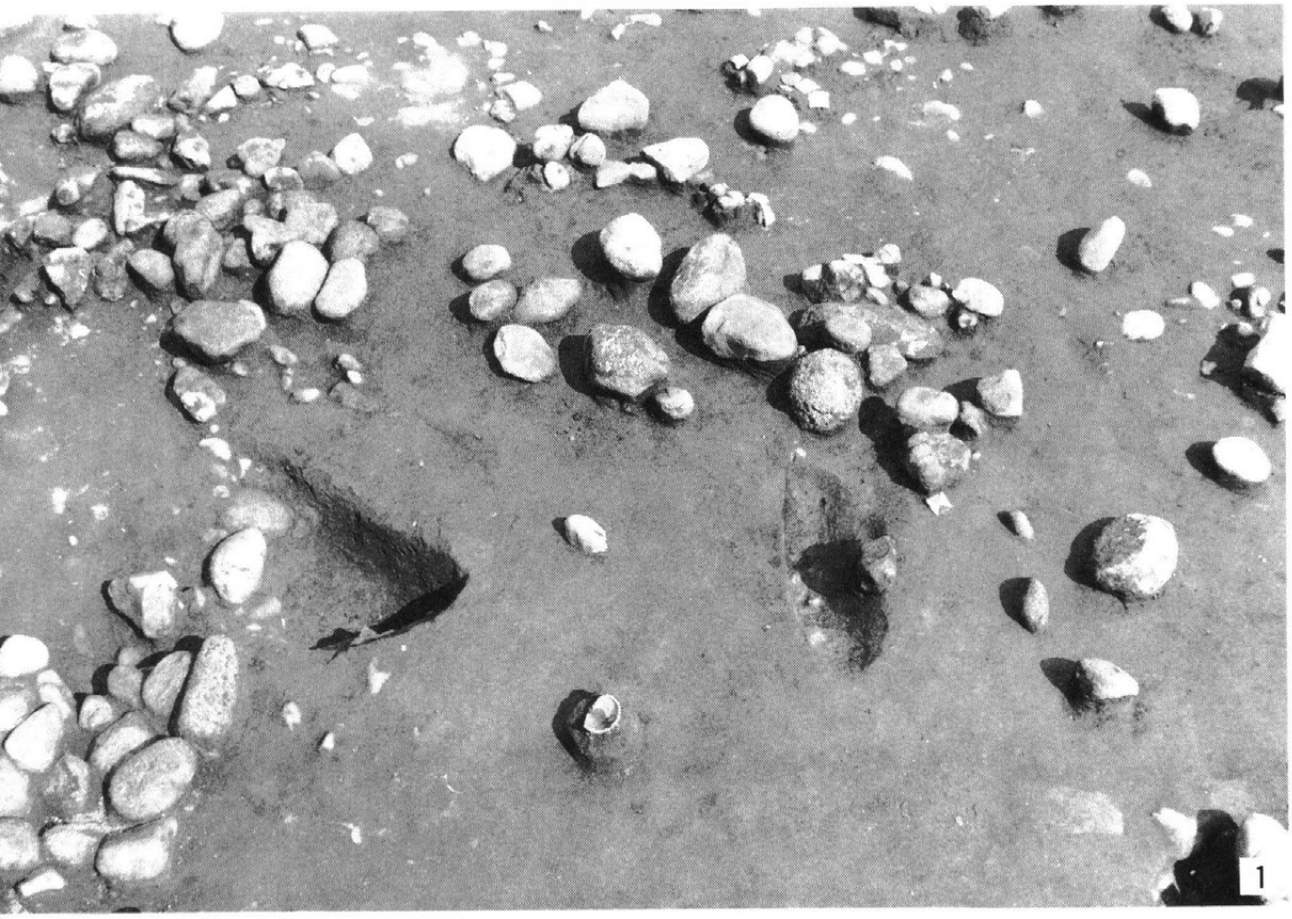
（上空より）



2．土坑40～42付近

（上空より）





縄文時代晩期末集石群

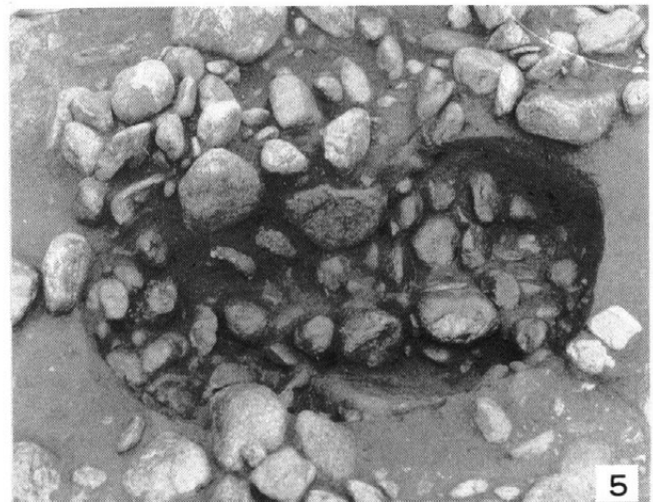
（土坑群）

1．土坑41・42・47付近

（南西より）

2．土坑２集石

3．土坑２断面



4．土坑42

5．土坑40

縄文時代晩期末集石群

（土坑群）

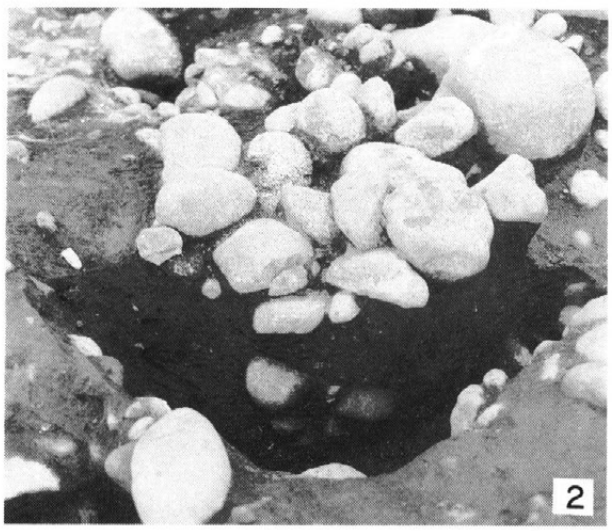
1．集石群東側土器集中出土状況（南東より）

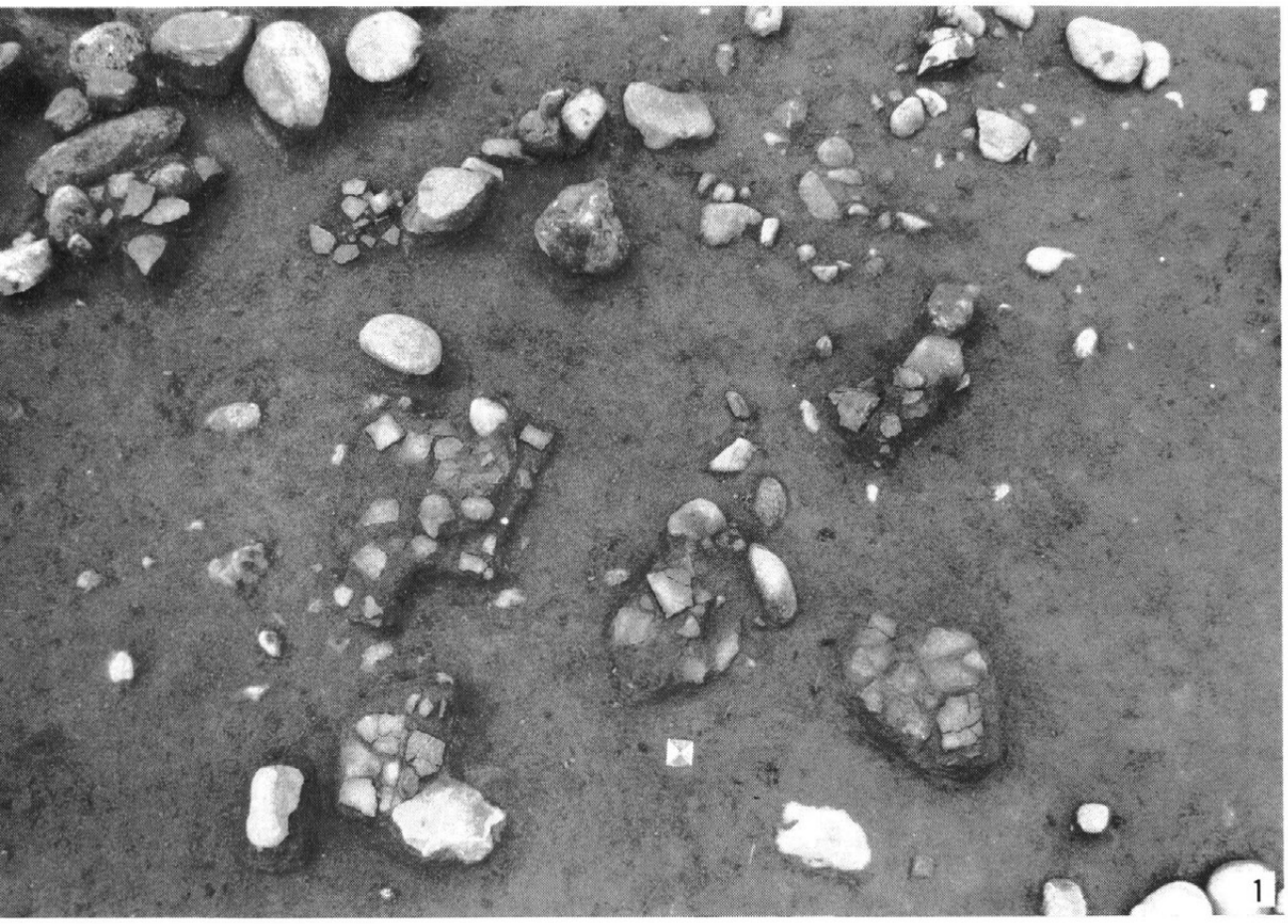
2．土坑47

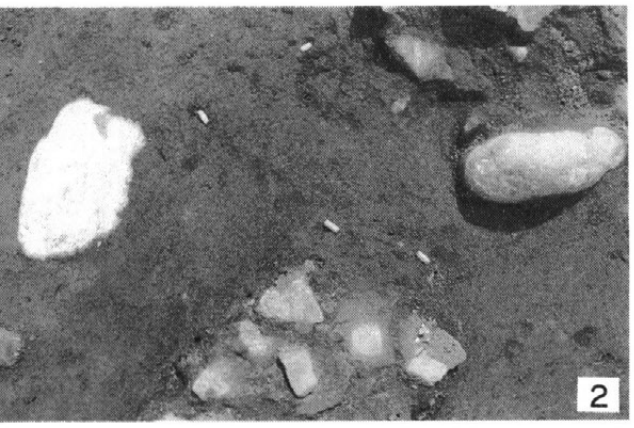
3．土坑48

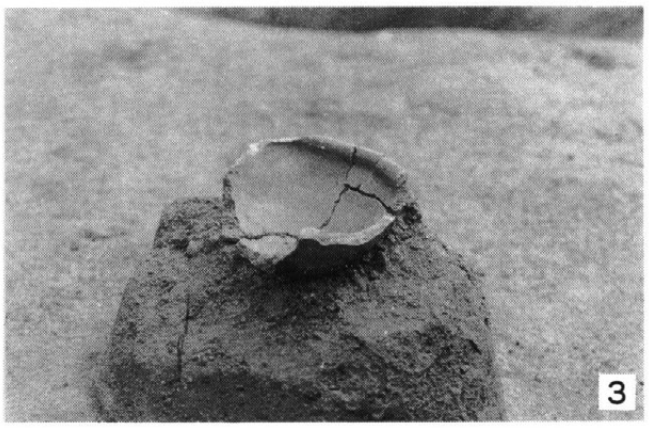
4．土坑67・79・80上面集石

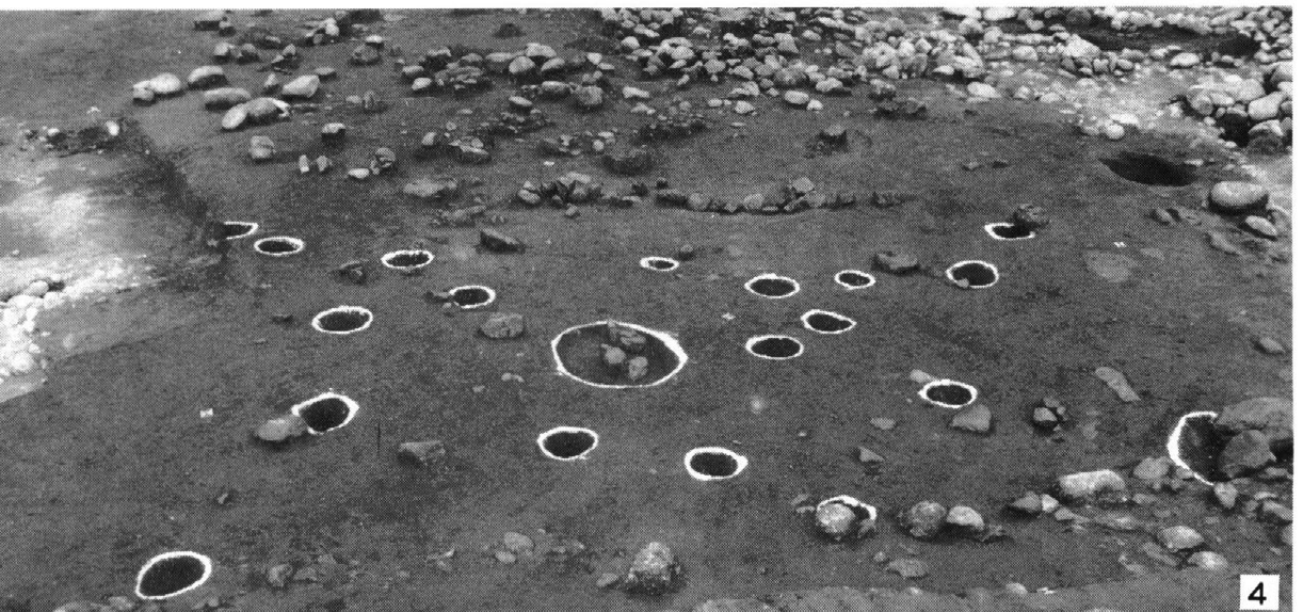
5．土坑68











縄文時代晩期末集石群

（土坑群）

1．集石群東側土器出土状況

2．土器集中内出土滑石製管玉未製品

（4個がまとまって出土）

3．集石群内出土浅鉢

4．集石群、列石2東側、柱穴群3（中央の土坑39にはわずかであるが焼土、炭があり、炉であった可能性が高く柱穴群は住居跡であったと思われる。東より）

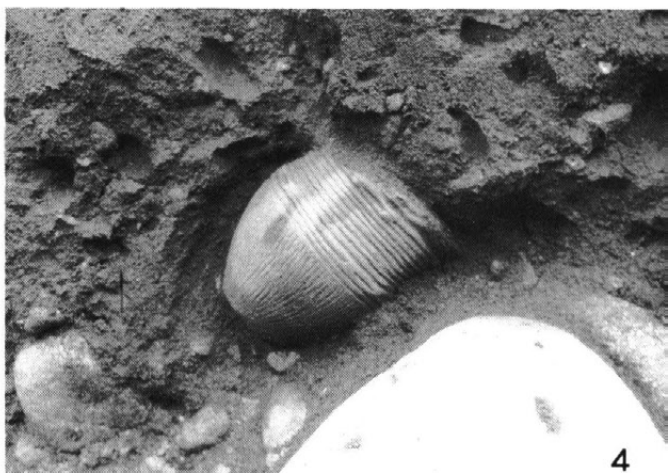
縄文時代晩期末

1．土坑1検出状況

2．土坑1

3．土坑39

4．土坑36土器出土状況



縄文時代晩期末埋

埋甕

1．（南西より）

2．（南東より）

3．断面（南より）

縄文時代晩期末

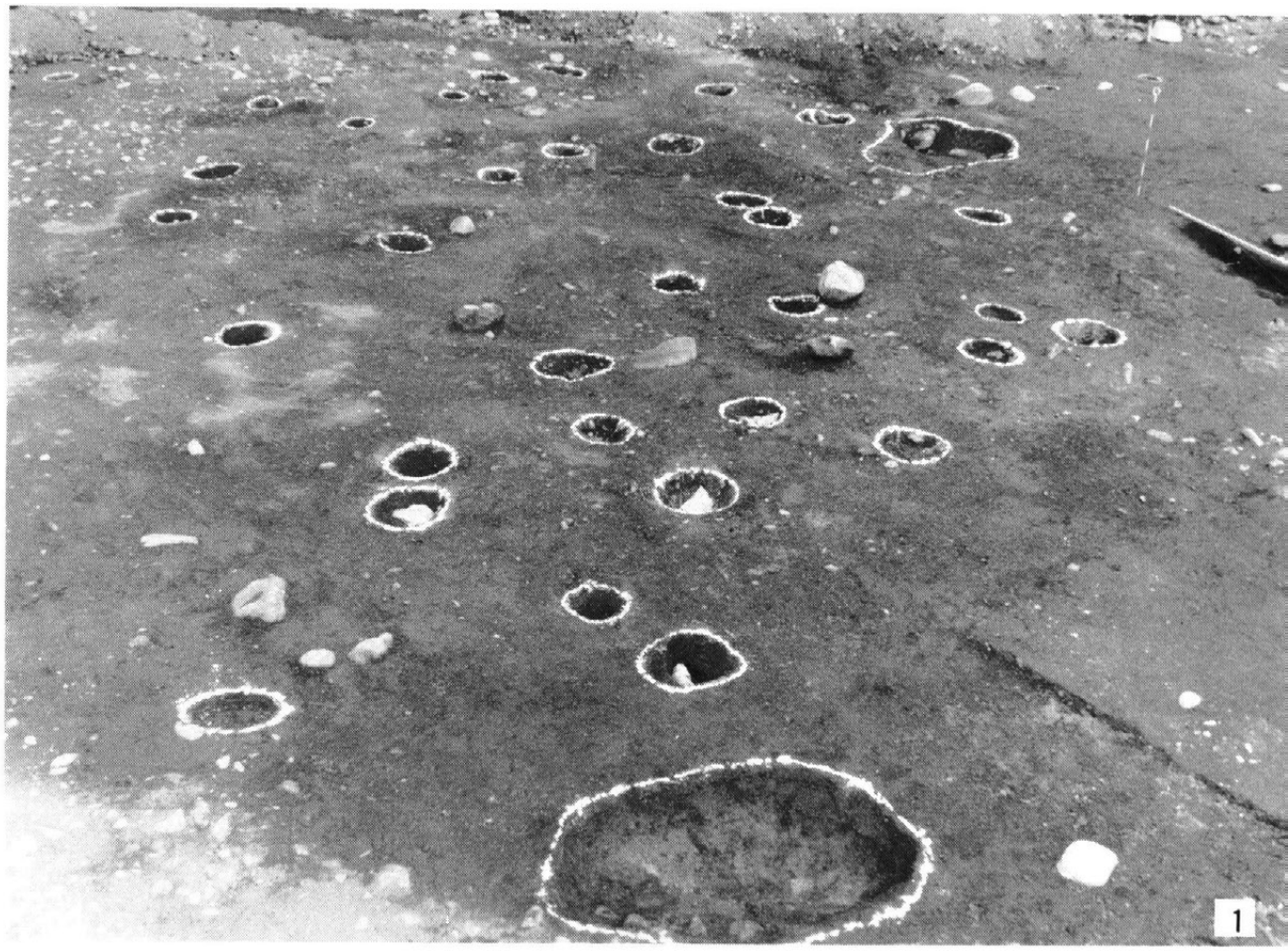
柱穴群１

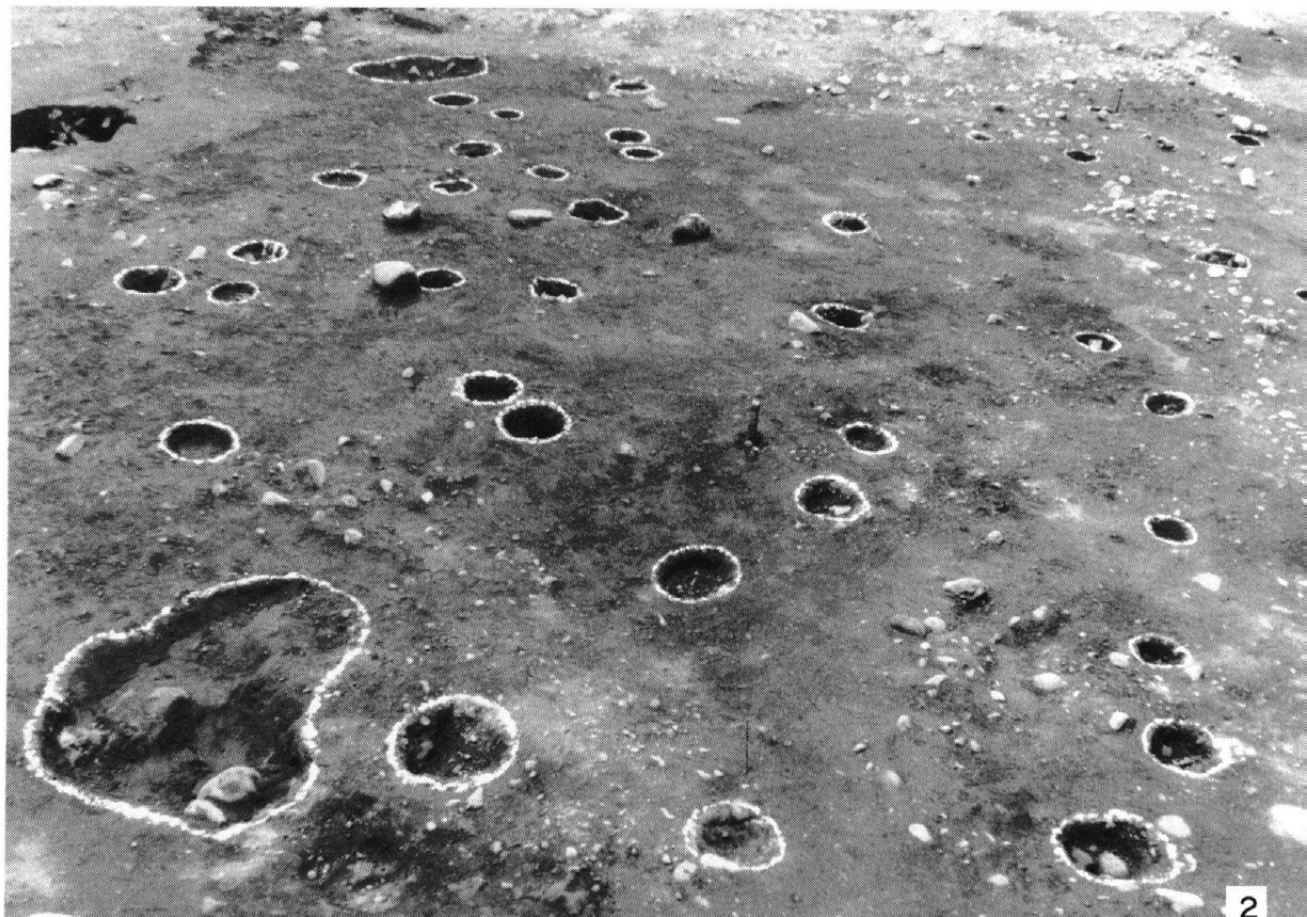
土坑16・17

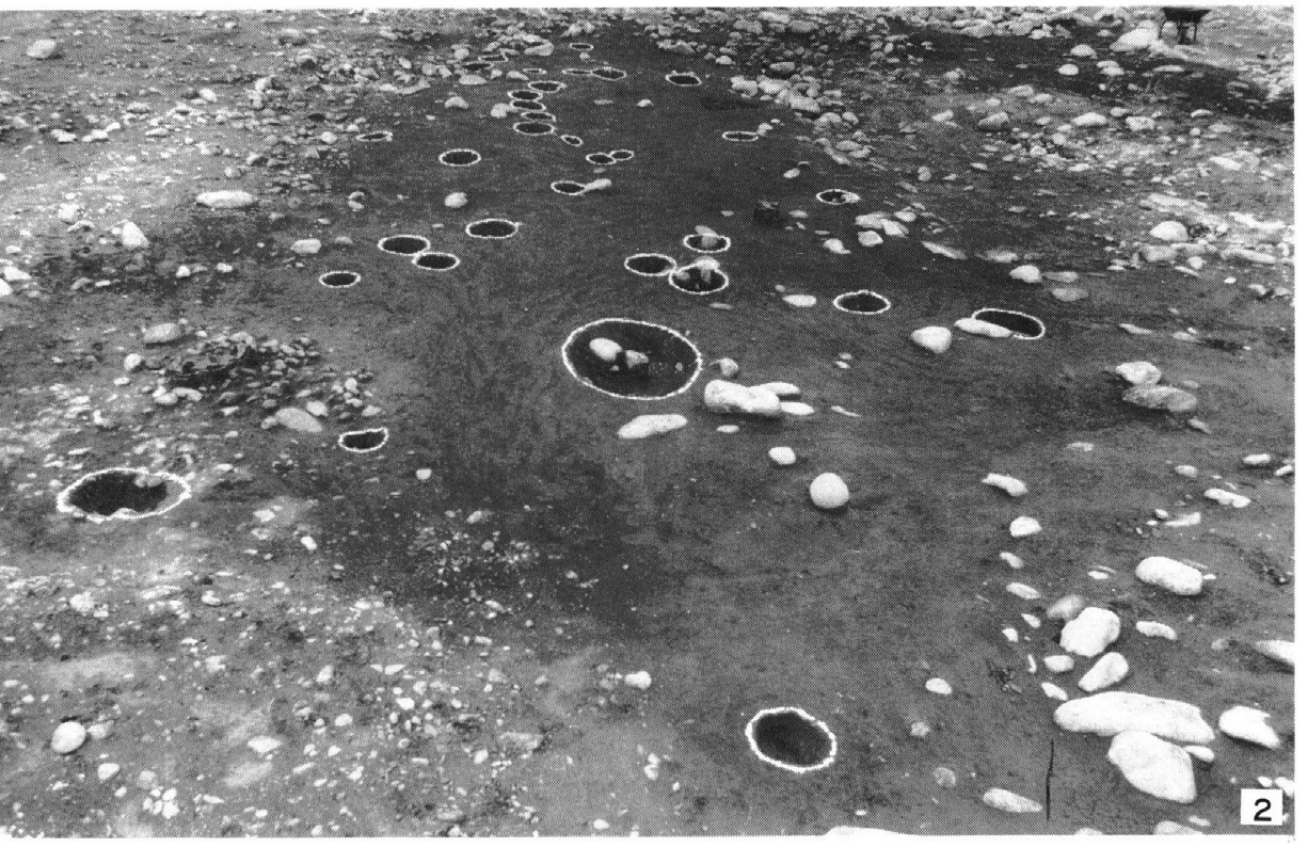
１．（南東より）

２．（北西より）

（柱穴群１は炉及び焼土等は検出されなかったものの、住居に関係したものと考えられる）







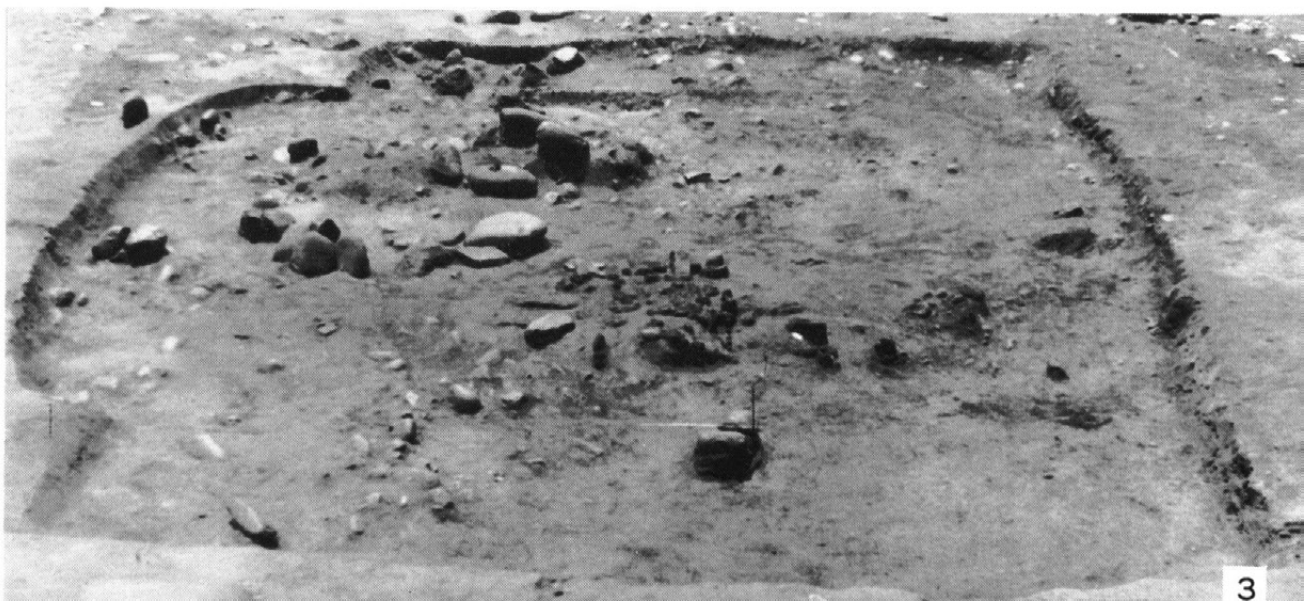
1．2柱穴群2
（縄文時代晩期末）
建物跡7（平安時代）
1．（東より）
2．（南より）
（建物跡7は
1では右側
2では上方にある
柱穴群）
（柱穴群2も柱穴
群1・3
同様に住居に関係
したものであると
思われる）

3．柱穴群3
（縄文時代晩期末。
南より）

1・2号住居跡
(南より。
弥生時代後半（箱清水期)。小形な住居跡で、炭化材・炭化物が多く見られ、焼失家屋と思われる。平面形は普通のこの時期のものと同じであるが、炉、柱穴が検出できず、普通の住居とは異なる。)

平安時代
2．1・38号住居跡、列石1（東より）

3．4・8号住居跡
(北より、4住は炭化材などが多く焼失家屋と思われる。4住が8住を切っている。)



平安時代

1．4・8号住居跡(西より)

2．5住居跡（西より。炭化材等が見られ焼失家屋と思われ、金床石・鉄滓・金肌等が出土し鍛冶関係の住居と推定される）

3．5号住居（西より。
中央の大きな石が金床石。鍛冶関係のピット（土坑）が2ケ所に見られる）

平安時代　5号住居跡

1．（南より。金床石等除去後）

2．金床石

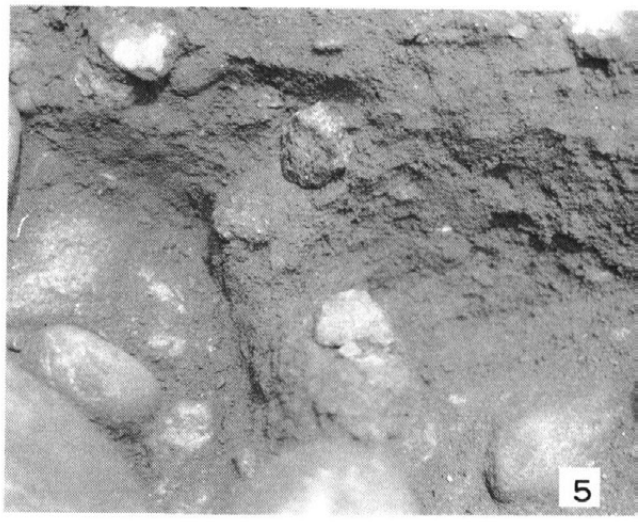
3．金床石西側ピット

4．金床石南側ピット

5．4のピット内鉄滓出土状況

6．東壁南側ピット

7．遺物出土状況



平安時代　9号住居跡

1．検出状況（西より）

2．炭化材出土状況

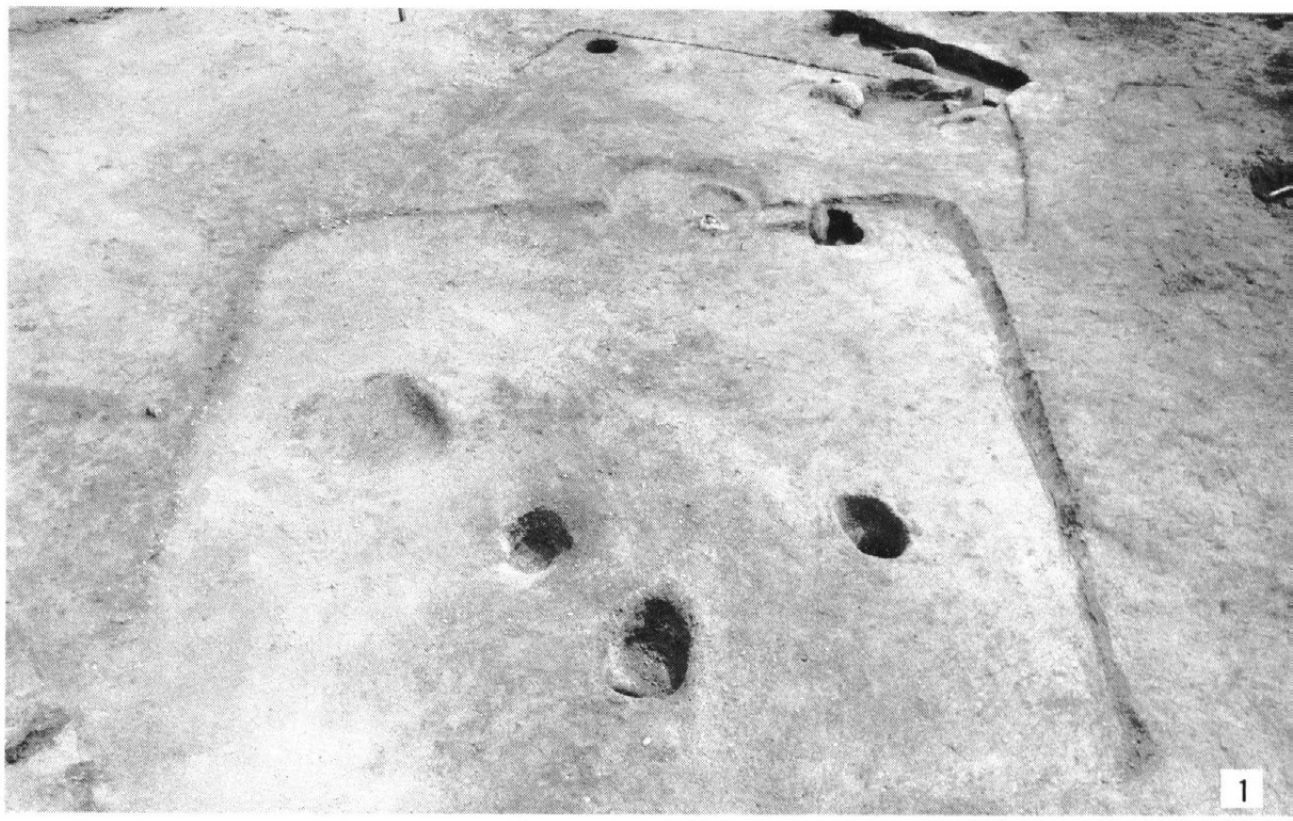
（西より。焼失家屋と思われる）

3・4、カマド

平安時代

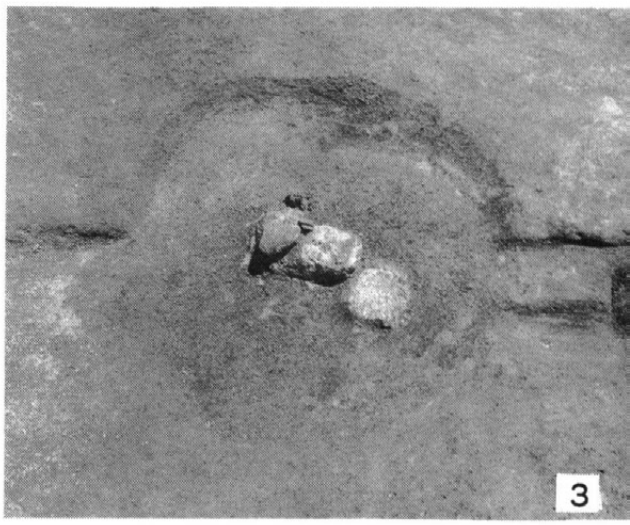
1．11・12号住居跡

（西より。11住は12住より新しい）



2．10号住居跡カマド

3．12号住居跡カマド



4．11・12号住居跡上の土層（北より）

平安時代　13号住居跡

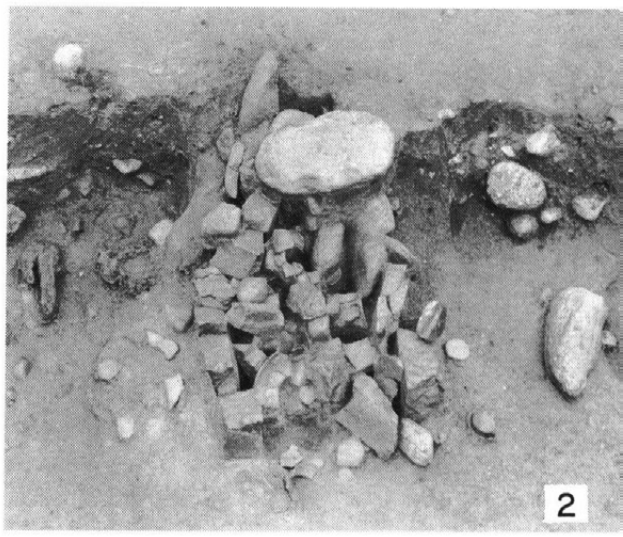
1．検出状況（東より）

2．全景（東より）

3．全景（東より、床面除去後）

平安時代

1～4、13号住居跡カマド

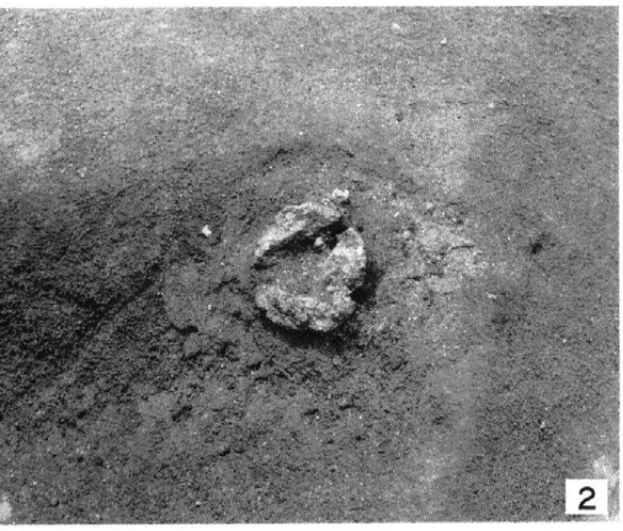


5．14号住居跡（東より）

平安時代

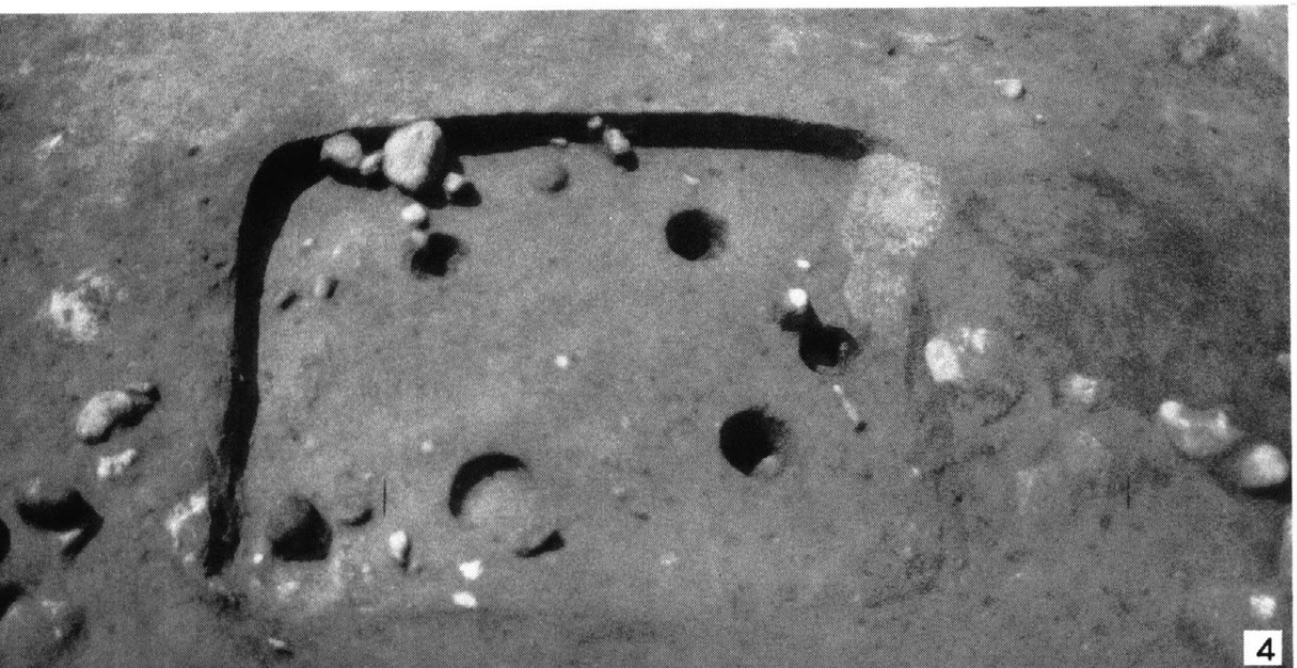
1～3、15号住居跡

1．全景（西より、金肌・炭等が集中する場所があり、鍛冶関係の住居と思われる。）



2．羽口出土状況

3．集石ピット（内部から、金肌、炭が集中して検出された）

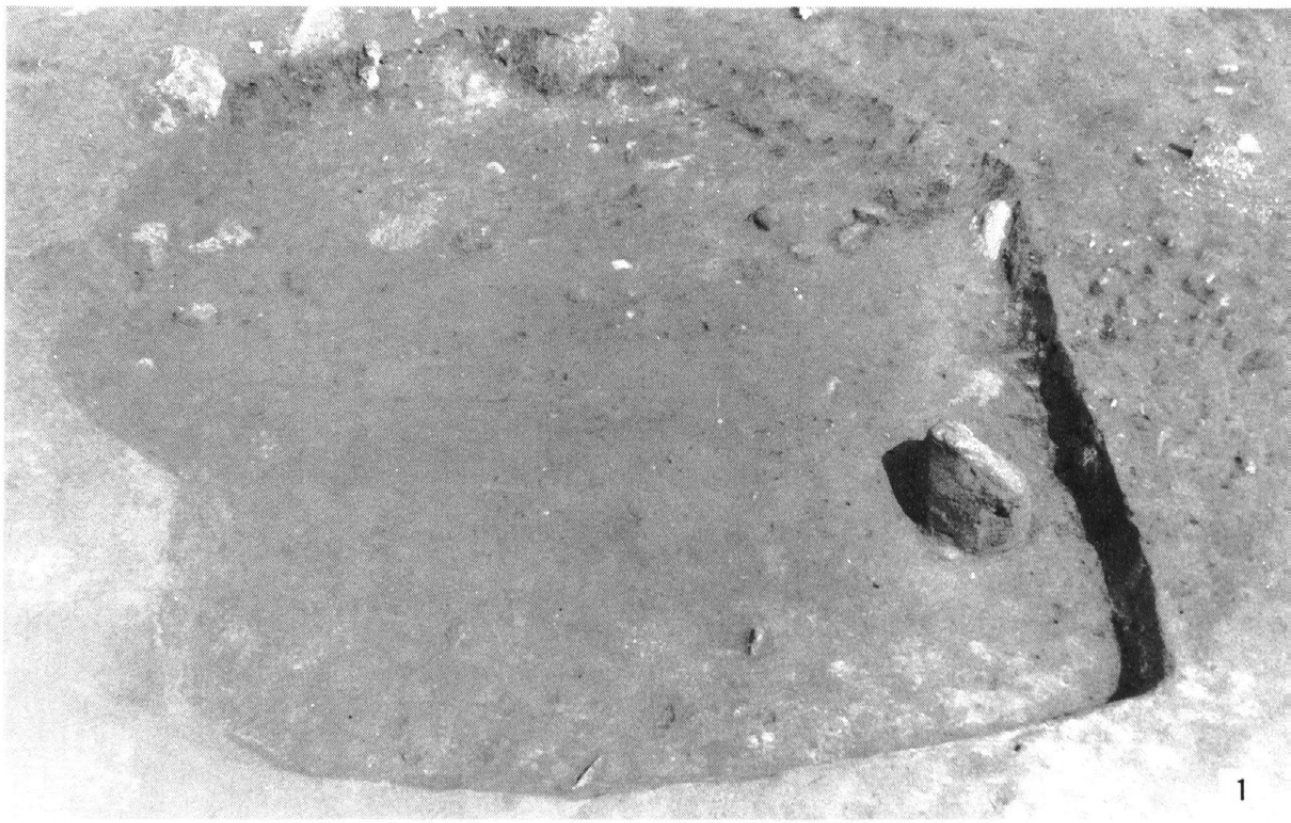


4．17号住居跡（東より）

平安時代

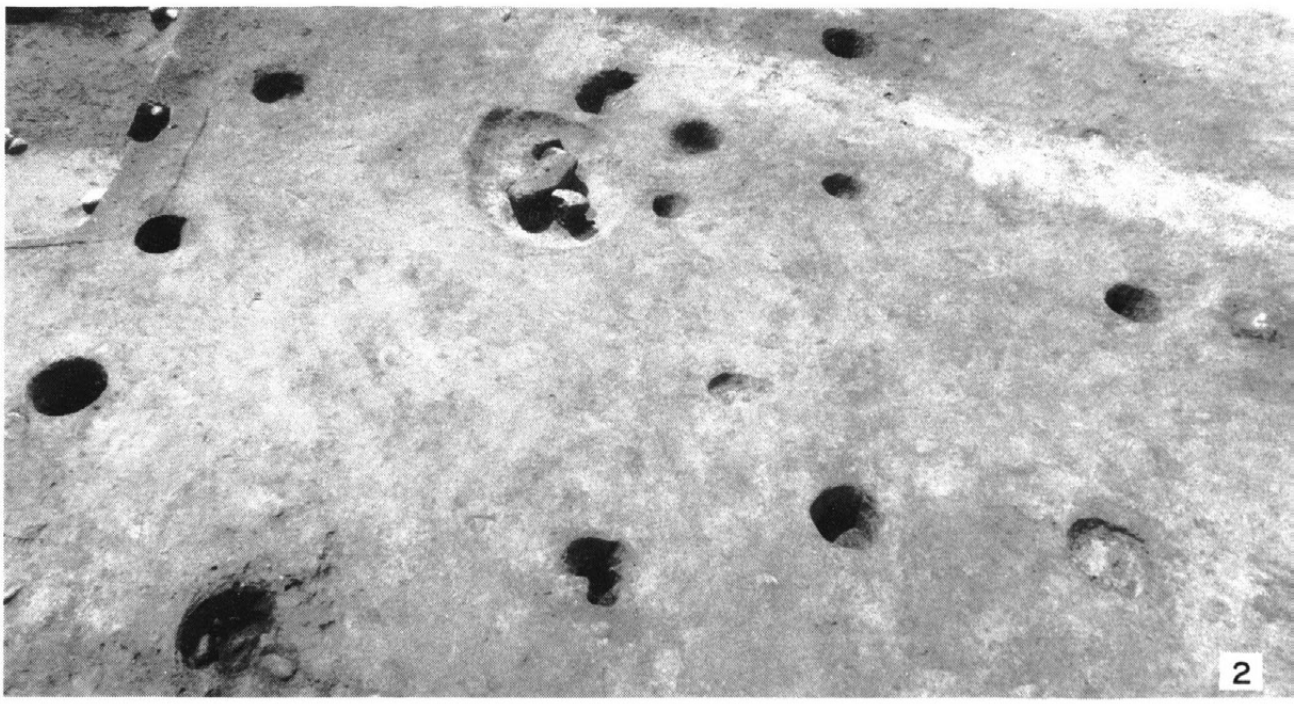
1．18・20号住居跡

（北より）



2．21号住居跡

（東より）



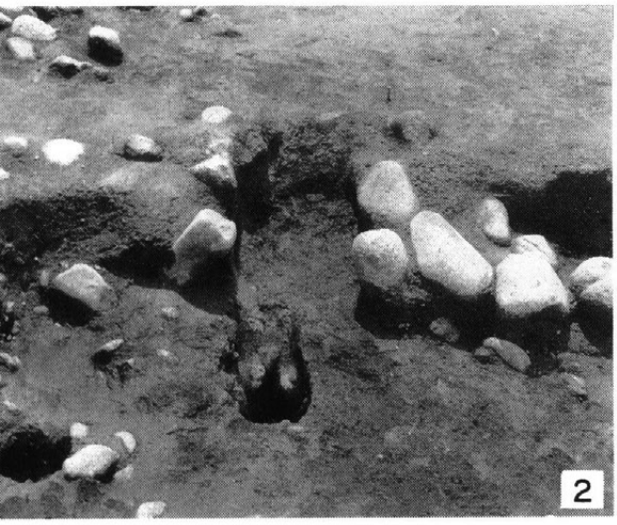
3．19・20号住居跡

（北より。後方は、製鉄関係遺構３の検出時のグリット）

平安時代

1．19号住居跡

（北より）



2．19号住居跡カマド

3，23号住居跡カマド

（右下の土器の内面には、ウルシがべっとりと付着していた。）

4．23号住居跡

（北より）

平安時代

1、2、25住居跡・炭焼き窯

1．（東より）

2．（南より）（25住居跡は、炭焼き窯に掘り込まれる。）

3．24号住居跡カマド

4．25号住居跡カマド

平安時代

1．26号住居跡炭化材出土状況（北より。焼失家屋である。）

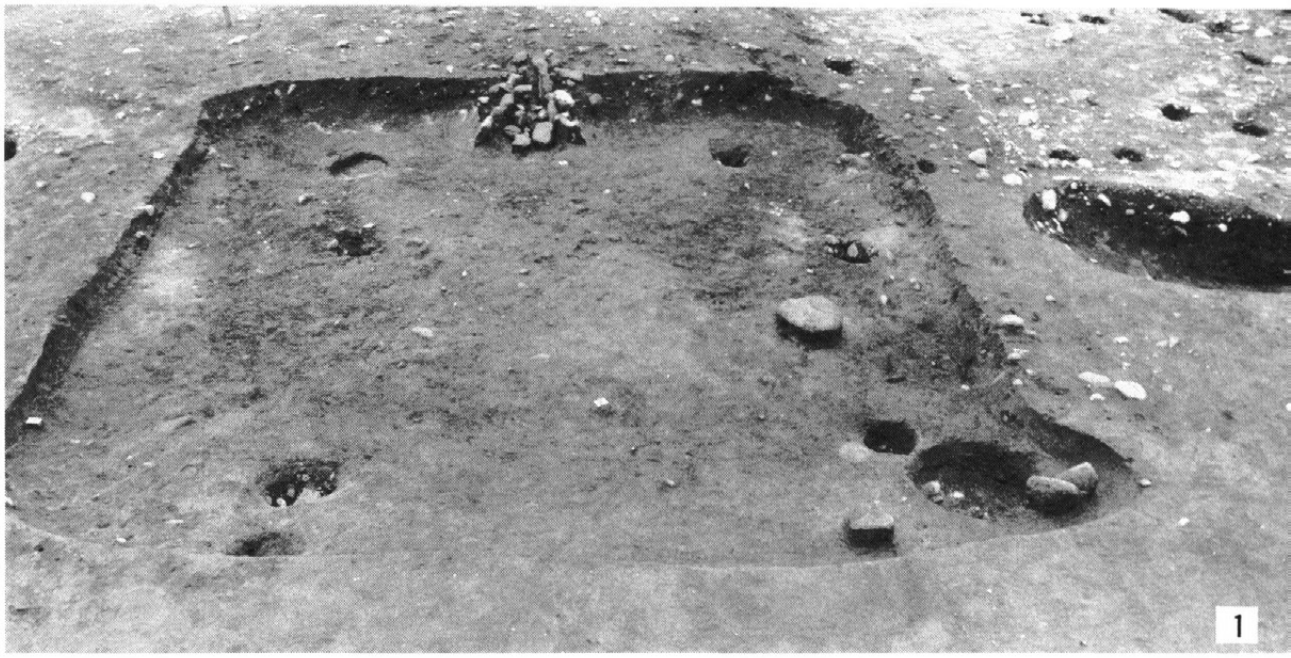
2．27号住居跡（西より、一部に炭化材等が認められ焼失家屋と思われた。）

3．29号住居跡炭化材等出土状況（西より。焼失家屋である。）

平安時代

1．29号住居跡

（西より）



2．3　29号住居跡カマド

4．30号住居跡

（北より。

一部に炭化材・焼土が認められ焼失家屋と思われた。）

平安時代

1．30号住居跡カマド

2．30号住居跡内北西遺物出土状況

3．32号住居跡（東より）

4．5．32号住居跡カマド

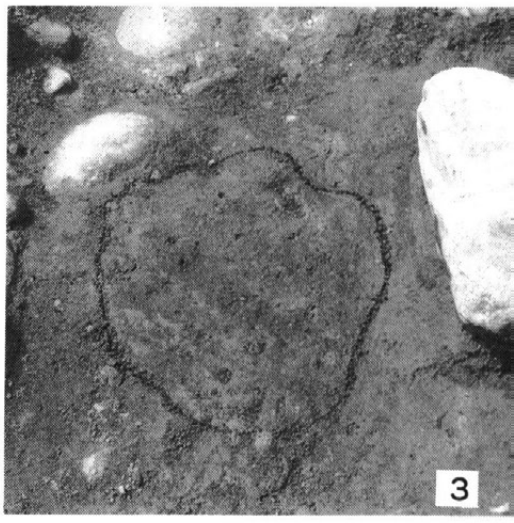
平安時代

1～3、33号住居跡

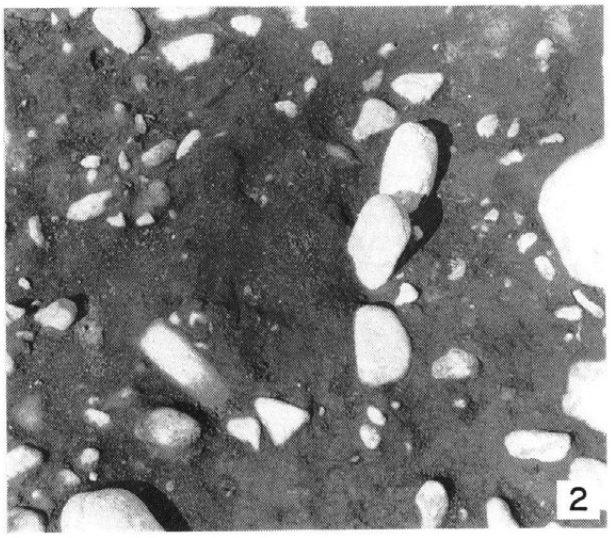
1．（北より）

2．南北隅の粘土段

3．床面南西部焼土



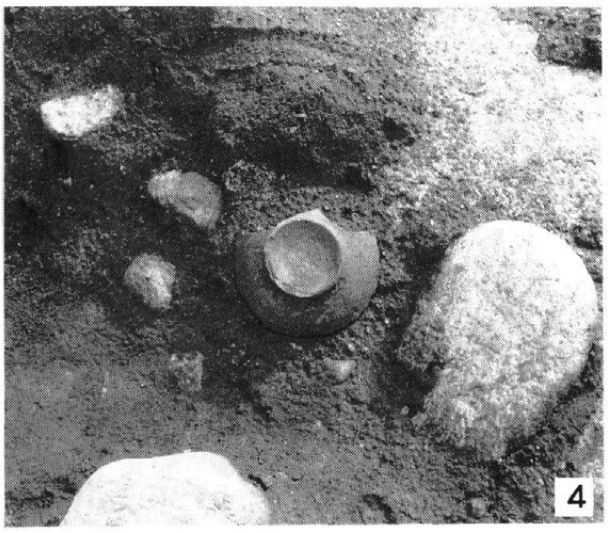
4．34号住居跡（北より、金床石・金肌等が検出され、鍛冶関係の住居跡と思われる。）



平安時代

1～4、34号住居跡

1．2．中央やや北東のカマド状遺構



3．金床石

4．土器出土状況

5．34・35号住居跡（西より。34住は35住を切る。）

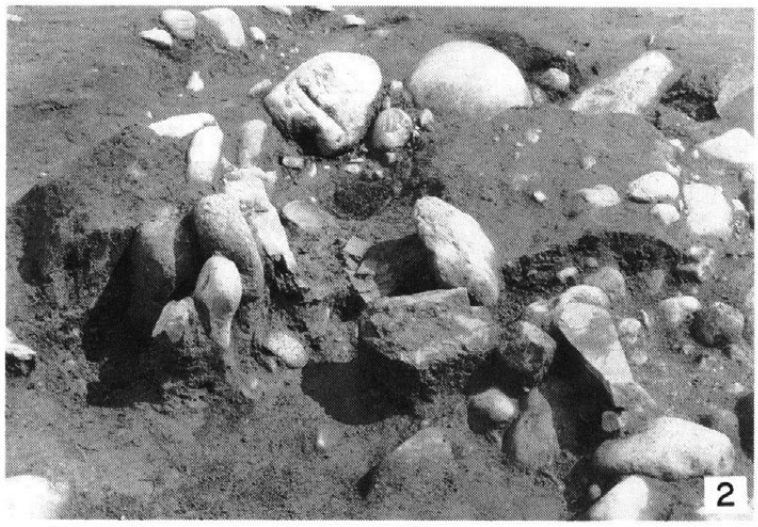
平安時代

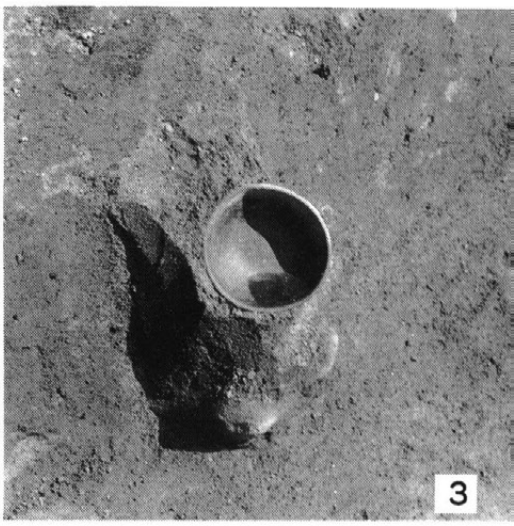
1～3、35号住居跡

1．（北より。床面中央には、炭、焼土が集中しており、焼失家屋の可能性がある。）

2．カマド

3．墨書土器出土状況





4．36号住居跡（北より）

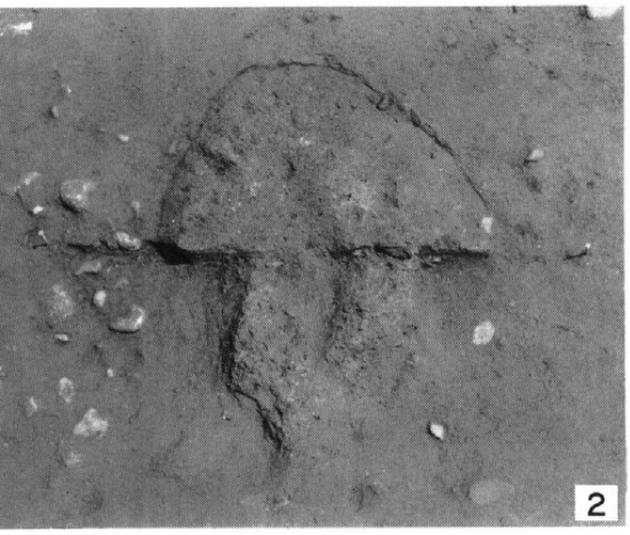
平安時代

製鉄関係遺構 1

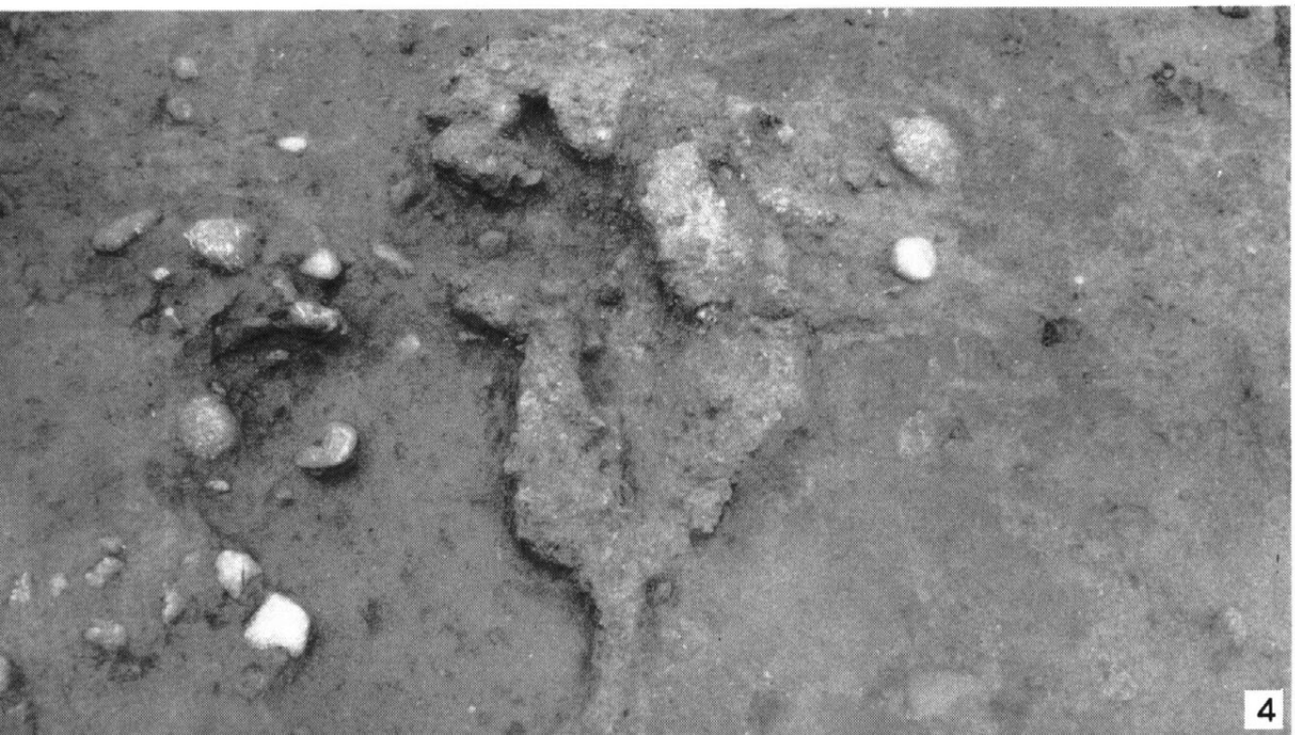
(炉)

1．炉床検出状況

(南より)



2．3　断面



4．炉底の粘土状況

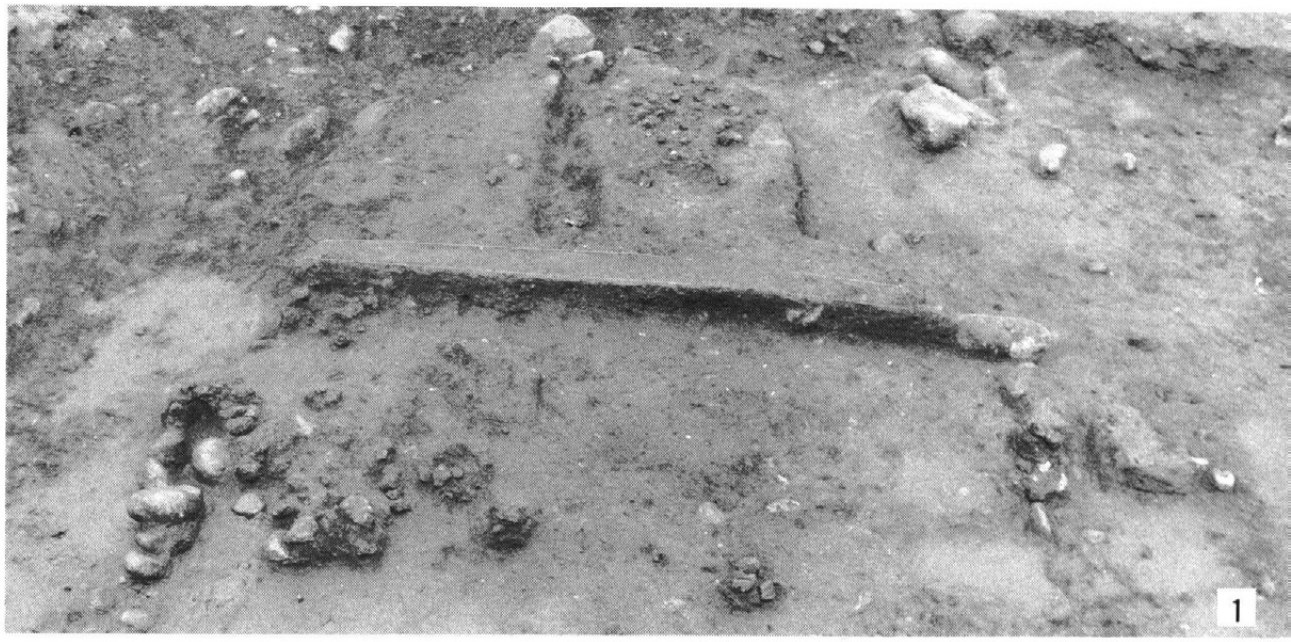
(南より)

平安時代

製鉄関係遺構 2

1．炉、灰原検出状況

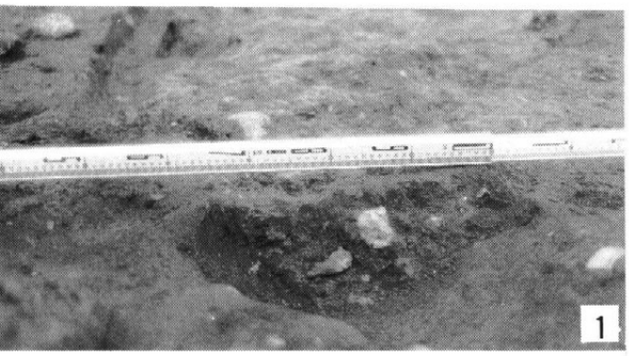
（西より）

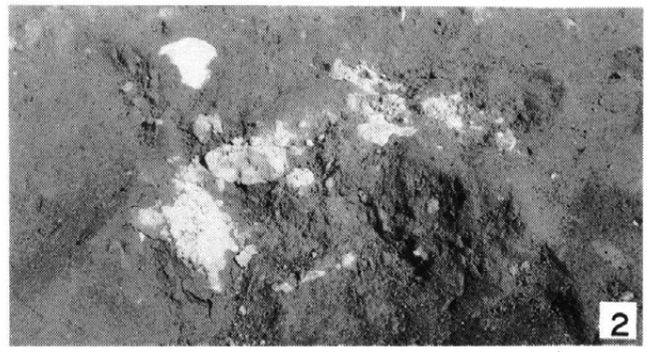


2．炉検出状況

（上面に見えるのはスラグ・窯体片）

3．灰原状況





平安時代

製鉄関係遺構２

１．２．排滓溝検出状況

・断面

３．炉・第１次面（西より）

３．炉・第１次面（南より）

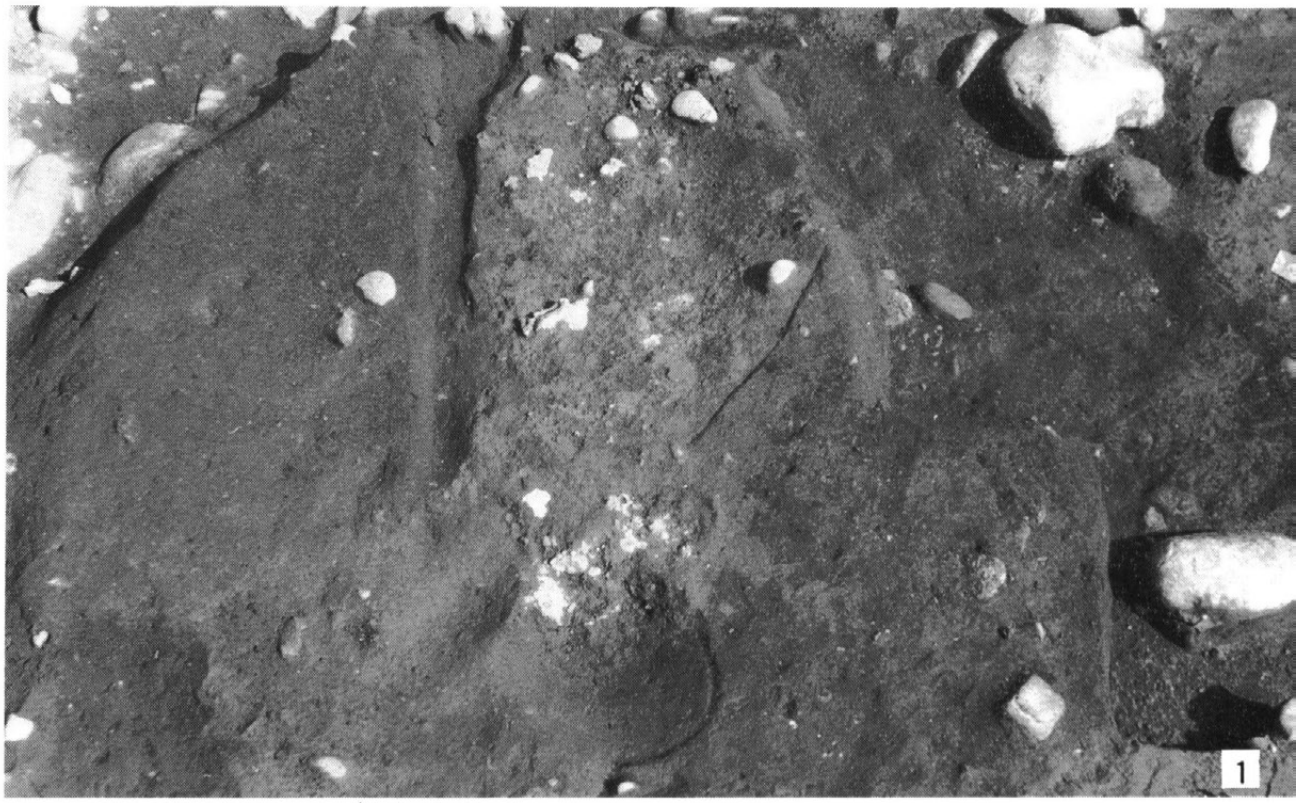
平安時代

製鉄関係遺構２・

炉

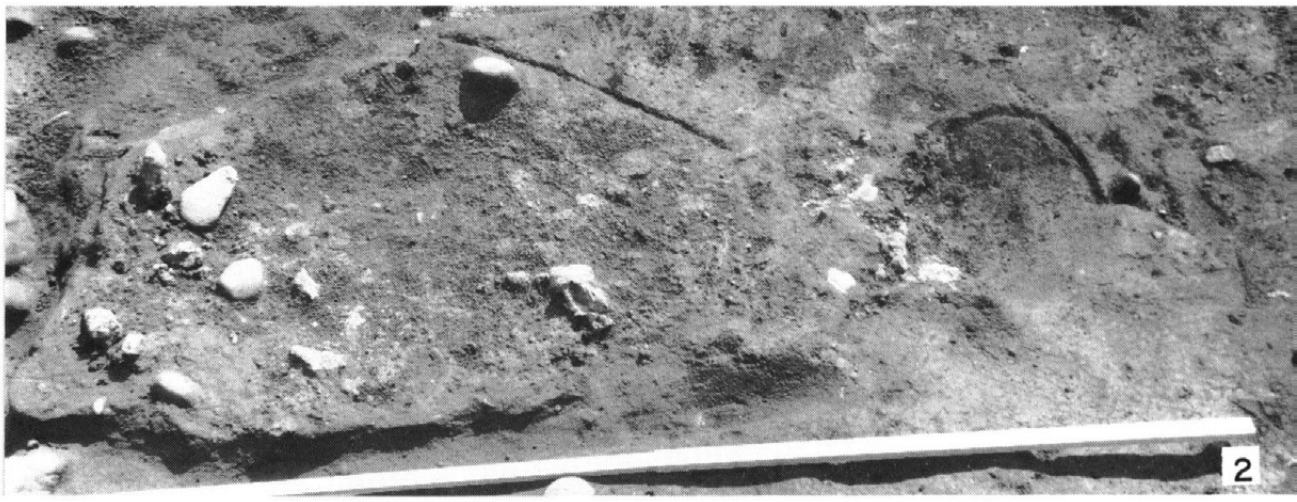
１．第２次炉床面

（西より）



２．第２次炉床面

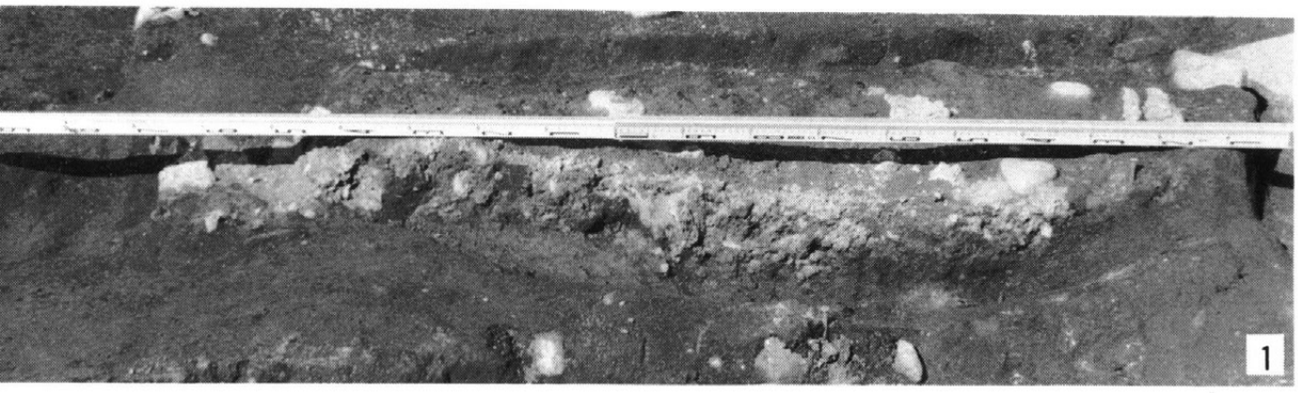
（北より）



３．第２次炉床面

断面

（北より）

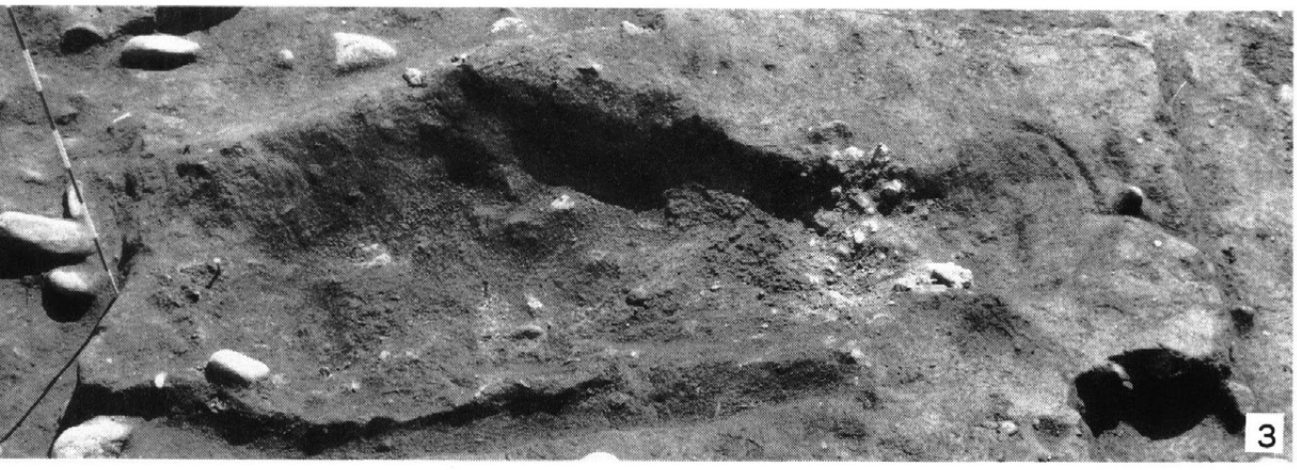


平安時代

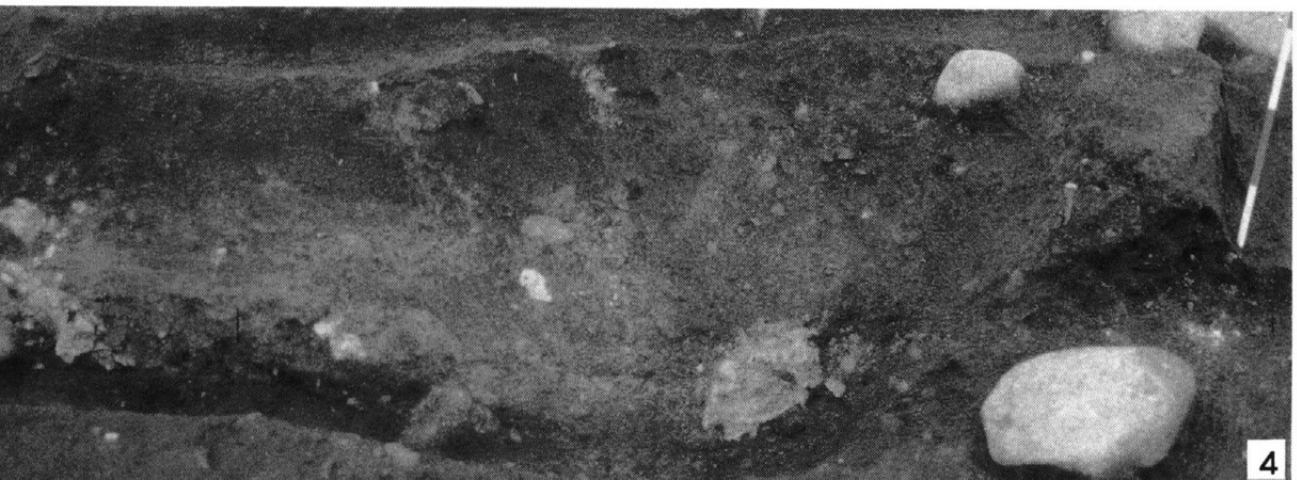
製鉄関係遺構２・炉

１．第２次炉床面断面（南より）

２．第３次炉床面（西より）



３．第３次炉床面（北より）



４．第３次炉床面断面（南より）